



こころ

あたたかい心、思いやりの心、私達は心の医療を推進します。

十全ユリノキ病院

精神科応急入院指定病院

〈理念〉

- 一 私達は、前向きで建設的に考えよう。
- 一 私達は、開かれた医療を展開して行こう。
- 一 私達は、自ら学び、研鑽し続けよう。

〈基本方針〉

1. 思いやりある、利用者中心の医療を目指す。
2. 過不足のない支援で、社会復帰を促進する。
3. 働き甲斐のある、職場を創り出す。



新居浜太鼓祭り

新居浜太鼓祭りは、徳島の阿波踊り・高知のよさこい祭りと並ぶ四国三大祭りとして知られており、日本三大喧嘩祭りとしても数えられています。また祭事そのものの起源は平安時代まで遡るとされており、江戸時代後期(1818～1830年)の文政年間には記録に残っています。当時は、「神輿太鼓」と呼ばれることが多く、神輿に供奉する山車(一種として、豊作を感謝して氏神に奉納する神輿渡御に参加していたと考えられています。

明治時代初期の太鼓台は現在の子供太鼓台ほどの大きさで、天幕も膨らんでいませんでしたが、別子銅山の開坑による産業の発展に伴い、地域経済が発展すると急速に大型化しました。明治中期から昭和



初期の太鼓台は現在の大きさになり、天幕も膨らみを持ったものが付けられ、飾り幕も現在のものになりました。

現在では、高さ約5.5m、長さ12m、幅3.4m、重さ約2.5トンという巨大な山車となった太鼓台。太鼓台の飾りは、最上部の「天幕」が太陽を表し、四隅の黒い「括」は雲を、括の先端から垂れる「房」は雨を表しています。金糸で刺繍された豪華な飾り幕は、上段の金龍は「布団締め刺繍」(昇り龍・降り龍)、中段は「上幕」、下段は「高欄幕」と呼ばれ、計16枚となっています。また、太鼓台上段部の布団締めが飾られている部分を「重」と呼び、朱色の座布団を模した枠型(布団)が重ねられています。

太鼓台が市内を練り歩き、150人余りの男衆(かき夫)が太鼓台を差し上げたり、太鼓台から打ち鳴らされた太鼓の音や指揮者の笛、男衆のかけ声によって盛り上がります。この勇壮な様子から「男祭り」とも呼ばれ、毎年約10万人の観衆を集めています。

また、強みとしては、せん妄や処遇困難な方の受け入れや、ユニットケアを主眼として、できるだけ個別に関わり、安心して過ごせる居場所を提供できるよう環境設定にも配慮しています。また、ケア技法「ユマニチュード」にも取り組んでいます。認知症の種類によって、特徴や症状は一人一人個性があり対応も違ってきます。利用者様とのコミュニケーションを大切に、ケア技法を取り入れながら、その人らしさを引き出し、日々のケアにつなげていきます。医療知識や高齢者の心理状態について理解したうえで対応できる、認知症専門デイケアは必要不可欠な医療サービスであると思います。通所により、安心できる日中の活動場所や、ご家族様の介護休息や介護相談など細やかな支援にも努めています。認知症の方にとって、周りの環境が大きな影響を与え、症状にも表れてきます。私達職員もその環境の一つであると考えており、重要です。その人のニーズに添った対応をチームで考えていく、関わり方や生活のリハビリで改善を目指し、住み慣れた地域での生活を継続し、健康的な生活を送れるように支援していく事が私達の役割だと思っています。

認知症患者はこれから先も増加の一途をたどります。地域で認知症の人やそのご家族に対して、求められるデイケアを目指して、迅速かつ丁寧なサービスを提供できるよう取り組んでいきます。

厚生労働省の「認知症施策推進大綱」では、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人やご家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を両輪として施策を推進すると明記しています。認知症は誰でもがなりうるものであり、ご家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

私達デイケア職員は、認知症の方々と過ごさせてもらう中で、「来てよかった」、「ずっと利用したい」と思っていただけだったサービスを目標としています。

認知症デイケアの役割

介護主任 加藤 律子

所在地のご案内



交通のご案内

- JR新居浜駅より南 約5km
- 〈市内バス〉 山根グランドバス停より徒歩 …… 約10分
- 〈タクシー〉 JR新居浜駅より …… 約10分
- 〈車〉 新居浜ICより西 約2km …… 約3分

十全ユリノキ病院

〒792-0844
愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28
TEL 0897-41-2222
FAX 0897-41-2224
<https://www.juzenhp.jp/>
E-mail juzen@juzenhp.jp



関連施設

- ◎生活のしづかさをもつ患者さまの社会参加と社会復帰をお手伝いしています。
自立訓練(生活訓練・宿泊型訓練)事業所国領荘 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-41-2258
- ◎単身生活が困難な患者さまの生きがいをもった自立への道を援助しています。
グループホーム 船木の里 愛媛県新居浜市国領甲4819-5 TEL0897-41-2258
- ◎患者さまのご要望に伺い、個別のお世話・相談を行っています。
訪問看護ステーションれんげの会 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-43-5653
- ◎生活に関する相談や福祉サービスの紹介などを行っています。
指定相談支援事業所まごころの会 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-47-6682
- ◎お年寄りの生活にふさわしい環境の中で共同生活を行い、生活能力の回復と維持を図っています。
グループホームむつみの家 愛媛県新居浜市中萩町9-52 TEL0897-43-1022



仕事を支える 短期記憶のはたらき (ワーキングメモリ)

長期記憶は個人の大切な思い出や知識、あるいは技能という、その人が生涯に体験してきたさまざまな情動や知識や方法に関する情報を保管しています。長期記憶は普段は隠れています。振り返ったときには現れ、体験した出来事を話したり、いつも通りの仕事をこなせたりすることで、社会生活上とても重要な役割を果たしています。また自分らしく生きるために蓄えた情報でもあります。これは長期に保存が可能な記憶です。

今回は、何か仕事をやり遂げるのに一時的に保存しておく短期記憶と呼ばれるものはたらきについて触れていきたいと思います。たとえば、朝ご飯を作るときを想像してみてください。毎日のことですが、手際よく時間内に終わらないといけないので、たいいてい2つの情報を同時に保持しながら、状況に合わせて必要な方に注意を向けて、次々と片付けていきます。こうした二重課題を可能にしているのが短期記憶であり、そのはたらきをワーキングメモリ(作業記憶)と呼んでいます。

作業記憶は英国のバドリーという心理学者によって50年前に登場しました。作業記憶は2つの短期記憶システムとそれを統括する注意システムから成り立っています。2つの短期記憶とは、聞いた言葉を頭の



中でリハーサルする音韻ループと、目でみた情報を書き込むスケッチ帳です。これを統括するのが中央実行システムと呼ばれる注意のコントローラです。耳から聞いた、あるいは言葉に置き換えた情報を一時的に覚えておくこと、また物の形や配置、色などの視覚的情報を覚えておくこと、それらを目の前の状況の中で、随時切り換えて目的を成し遂げます。今は冷蔵庫に、次はまな板に、今度は鍋に…とその時々に必要な操作を加えて、最終的に献立が完成します。この時に頭の中の音韻ループとスケッチ帳を利用して、複数の課題を同時に処理しながら調理を進めていきます。この課題の切り換えを行っているのが中央実行システムです。

このようなはたらきものの短期記憶のおかげで、日々の生活を滞りなく済ませることができます。ワーキングメモリには容量があります。容量を超えると必ずトラブルが発生します。短期記憶から長期記憶へと移動する情報もありますが、ほとんどの短期記憶の情報は課題の終了とともに消え去ります。運転中のスマホ、作業中の世間話などなど、集中力を要する課題中の事故や失敗の原因は、この記憶に照らし合わせて考えてみるとよいでしょう。



新人研修

令和6年7月24日(水)、新人教育研修を実施しました。この研修は毎年この時期に教育委員会が実施しており、今年は18名の新人職員が参加しました。

研修内容は、「当院のあゆみ」、「組織体制と各委員会の説明」、「感染対策の取り組み」、「関連施設の紹介」、「新人職員としての心得」などを行いました。

精神障がい者の社会的偏見と人権の尊重についてと当院での取り組みについて理解を深めました。



施設見学も随時可能です。

看護職員募集

- 看護師・准看護師 中途採用者随時募集(5名)
- 看護助手 中途採用者随時募集(5名)
- パート(時間8:30~12:30)(3名) **急募**

受付期間 随時 お問い合わせ先 TEL(0897)41-2222(総務人事課 黒部)

グループホーム船木の里のご紹介



グループホームとは??

障害者グループホームとは、障害者総合支援法で定められたサービスの一つである「共同生活援助」のことです。

障がいのある方が、日常生活において必要な支援やサポートを受けながら、地域で共同生活を送ることができる場所です。

サービス内容

服薬管理、掃除、洗濯、食事、通院付添、余暇、衣替え、ごみの分別など個別の支援も行います。

施設見学のご希望や、ご不明な点等ございましたら、0897-41-2258(国領荘)までご連絡ください。

| | |
|--------|------------------------------------|
| 定員 | 4名 |
| 居室 | 個室8畳 |
| 設備 | トイレ・バス・エアコン・IHクッキングヒーター |
| 利用料金 | 家賃 月額 19,000円 (10,000円の補助があります) |
| 電気・水道代 | 月額 10,000円前後 (入居者で分割) |
| 食事代 | 月額 8,000円 (平日夕食提供分) |

愛媛県認知症疾患医療センター 十全ユリノキ病院からのお知らせ

第8回 ユリノキ研修会を開催しました!

2017年度より、新居浜・西条圏域の医療福祉関係の皆さまを対象にした「ユリノキ研修会」を開催しており、今年度は令和6年10月5日(土)愛媛県総合科学博物館にて開催いたしました。

今回は岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 寺田整司先生より「認知症の早期診断～新薬の基本的情報も含めて～」との演題でご講演いただきました。

講演ではアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の症状について分かりやすく教えていただきました。その中でも、レビー小体型認知症の方は診断される10年前頃より、不安、抑うつ、便秘など、様々な症状が出現するため、早期診断が難しいとのこと説明がありました。ご本人やご家族よりお話を伺い

る際には、いつ頃からどのような症状があったのか、詳しく確認する必要があると感じました。

また、認知症の方の治療は服薬のみで治療することは難しく、ご家族やご参加いただいた方々とのつながりが大切であり、つながることで症状が和らぐこともあるとの話もありました。認知症の方の意向を確認することが難しい場合には、ご本人ならどう思うだろうか?とご家族に推測していただくことが大切であることも再認識しました。

今回は医師、看護師、総合病院の相談員、介護支援専門員等、幅広い職種の皆さまにご参加いただくことができました。来年度以降も、ご参加いただく皆さまにとって、有意義な時間となるような研修会を企画・開催していきたいと思っております。

